

# 若年者向け金融教育教材 「新・大人社会へのパスポート」の 特徴と活用事例について



# 若年者向け金融教育教材 「新・大人社会へのパスポート」 の特徴と活用事例について

中央労働金庫 総合企画部(CSR) 白井宏幸

新・大人社会へのパスポート

URL:<https://chuo.rokin.com/aboutus/csr/passport/>

新・大人社会へのパスポート2

URL:<https://chuo.rokin.com/aboutus/csr/passport2/>

新・大人社会へのパスポート3

URL:<https://chuo.rokin.com/aboutus/csr/passport3/>

新・大人社会へのパスポート4

URL:<https://chuo.rokin.com/aboutus/csr/passport4/>

新・大人社会へのパスポート5(最新作2025年2月リリース)

URL:<https://chuo.rokin.com/aboutus/csr/passport5/>

中央労働金庫は、労働組合の組合員への金融教育を長年行ってきた経験を活かし、若者の健全な消費生活を支援するため、大学ゼミと共同で金融教育教材「新・大人社会へのパスポート」を制作しました。2024年度までに5シリーズ制作した本教材は、日常生活で身に付けてほしい金融リテラシーの土台(契約や奨学金等の基礎知識、お金をつかう・ためる、消費者トラブル防止等)を、若者の目線で分かりやすく解説した教材として「消費者教育教材資料表彰 優秀賞」を受賞するなど、高い評価を受けています。

本教材の特徴、内容、出前授業などの活用事例について、中央労働金庫 総合企画部(CSR) 白井宏幸氏にお話を伺いました。

## 大学生と共同制作! 若者目線の金融教育教材

——「新・大人社会へのパスポート」を制作した背景・経緯を教えてください。

中央労働金庫は、労働組合や生活協同組合等の出資によって設立された金融機関です。全国に13ある労働金庫の一つとして、関東1都7県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨)を営業エリアとする中央労働金庫は、設立当初から組合員(働いている人)向けに、消費者トラブルや多重債務防止のための金融教育を実施してきました。これが、私たちの金融教育活動の原点です。

学校や地域への金融教育はこれまで、社会貢献活動の一環として、個別対応で行ってきました。しかし、CSR(\*1)やSDGsの重要性が近年高まったことを受け、2018年度に総合企画部CSR部門を設置し、学校や地域への金融教育への取組を強化することとしました。

「新・大人社会へのパスポート」(以下本教材)は、この取組の一環として、大学ゼミと共同で制作しました。CSR活動の一環として制作した教材であるため、中立公正な内容を心がけており、中央労働金庫の宣伝や商品紹介は極力排除しています。本教材を通じて、より多くの若者たちが健全な経済生活を送るための知識を習得できればと考えています。

### 金融リテラシー向上に係る中央労働金庫の取組の歴史

1950年  
(昭和25年)

#### 岡山県に日本初の労働金庫が誕生

戦後、勤労者の社会的信用は低く、生活資金の借入れは質屋や高利貸しに頼らざるを得ない状況であった。そこで、勤労者が資金を出し合い、自らの生活向上に活かすため、〈ろうきん〉が設立された。



1983年  
(昭和58年)

#### 全国で「サラ金対策キャンペーン」を実施

高利貸業者からの過剰貸入れによるトラブル(いわゆる「サラ金問題」)が社会問題化したことを受け、「サラ金対策キャンペーン」を〈全国ろうきん〉で展開した。世論を大きく喚起するとともに、被害の予防と救済活動を大きく前進させた。



2001年  
(平成13年)

#### 関東1都7県の労働金庫(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨)が統合し、〈中央労働金庫〉が誕生

全国の〈ろうきん〉で地域統合が進み、関東では協同組織金融機関として日本最大の〈中央労働金庫〉が誕生した。

カードローン問題や多重債務に関する啓発活動、マネートラブル防止セミナーに現在も取り組んでいる。



2018年  
(平成30年)

#### より幅広い層への金融教育を届けるために総合企画部CSR部門を設置

〈中央労働金庫〉では、CSR活動の一環として未来を担う若者向けの金融教育に注力。組合員(働いている人)はもとより、主に地域(学校)での金融教育の実施や金融教育教材の制作、行政・地域との連携を強化。

〈ろうきん〉では、設立当初から主に労働組合の組合員(働いている人)に対する金融リテラシー向上・マネートラブル防止の取組を実施している。

(\*1) CSR: 企業活動において、社会的責任、環境問題などへの配慮を組み込み、従業員、投資家、地域社会などの利害関係者に対して責任ある行動を取り、説明責任を果たしていく考え方です。

## ——「新・大人社会へのパスポート」の紹介をお願いします。

本教材は2024年度現在、第5弾まで制作しています。

第1弾(2019年9月DVD発行/2020年1月ワークブック発行)は、2022年の民法改正による成年年齢下げをテーマに、若者が契約に関する基礎知識を身につけることを目的とした教材です。契約の基本、消費者トラブルの防止策、クレジットカードの仕組みなど、日常生活で知っておくべき最低限の知識を紹介しています。

第2弾(2021年11月DVD発行/2022年2月ワークブック発行)は、高等学校の学習指導要領が改訂され、金融経済教育の内容が拡充された背景もあったため、金融リテラシー全般をテーマに、お金を使う・貯めるといった基本的なことから、ライフプラン、家計管理、金融商品、トラブルの防止と解決といったお金との「上手な付き合い方」を紹介しています。

第3弾(2023年2月DVD・ワークブック発行)は、奨学金をテーマに制作しました。約2人に1人が利用している奨学金について、現在利用している方だけでなく、これから利用する方に対しても、金融機関としての視点を踏まえながら、利用にあたって注意すべき点や、お金に対する判断力、行動力を養うことを目的としています。

第4弾(2024年2月DVD・ワークブック発行)は、若者が陥りやすい消費者トラブルをテーマに、つけこまれる人・つけこむ人の目線をワークブックに掲載し、それぞれの目線で消費者トラブルを紹介しています。

第5弾(2025年2月DVD・ワークブック発行)は、特別支援学校に通う生徒が社会に出る前に、将来の夢に向けて必要なお金の計画の立て方や管理方法、消費者トラブル未然防止等の基礎知識を紹介しています。

本教材を制作するにあたって、投資や資産形成に偏りがちな金融教育に対し、労働組合の組合員向けに消費者トラブルや多重債務防止の金融教育を行ってきた金融機関ならではの視点を取り入れるという強い思いがありました。お金を使う・貯めるといった基礎的な知識から、消費者トラブルの未然防止につながる情報を重点的に紹介しています。「消費者トラブルは自分には関係ない」とわれがちですが、実際には身近に起こりうる問題です。そこで、私たちが長年培ってきた金融教育の知見を活かし、若年層が最低限知っておくべき知識・情報を知る手段として本教材を活用していただければ幸いです。



▲第3弾は「奨学金のオモテとウラ」のタイトル通り、オモテ(知っておいて欲しい制度・知識)とウラ(トラブルの元となりやすいポイント・制度)の両面から読める構成となっている。

## ——大学ゼミとの共同で「新・大人社会へのパスポート」を制作した理由や制作体制を教えてください。

第1～4弾は、東京経済大学の村千鶴子教授のゼミに参加する3～4年生と共同で制作しました。

大学ゼミと共同で本教材を制作した理由は、弁護士でもある教授の法的知見をいただくと共に“若者の視点”も教材に取り入れたかったからです。例えば「クレジットカード」を教材内では「クレカ」と表現したり、イラストのタッチをアニメ調にしたりと、若者に読んでもらうためのアイデアを学生たちに出してもらいました。

制作体制ですが、すべてのゼミ授業に中央労金スタッフも参加し、意見交換を踏まえながら1年間かけて教材を制作しました。動画には事例ドラマがあるのですが、ドラマを撮影する制作会社の選定から、演者の選出、夏休み等に行われる撮影の現場同行まで、すべて参加しています。ゼミ生たちからは、「大学4年間で一番の成果は『新・大人社会へのパスポート』を作ったこと」とのお言葉もいただきました。

最新作の第5弾(特別支援学校向け)は、法政大学の新倉貴士教授のゼミによる教材の制作コンセプトや演出、キャラクター等のアイデアを提案いただき、教材制作の中で実際に反映しました。

このように制作した教材が、「消費者教育教材資料表彰」で優秀賞を3回受賞(\*2)できたことは、非常に意義深いと感じています。



東京経済大学における動画撮影風景。



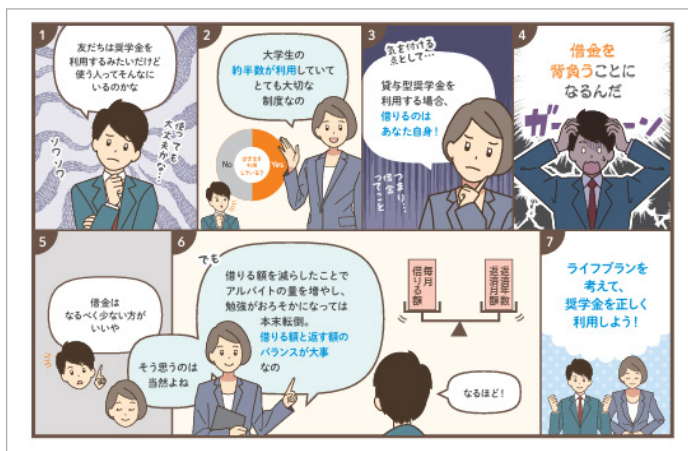
撮影現場でのディレクション作業等も学生が主体的に行った。

(\*2) 「消費者教育教材資料表彰」で優秀賞を3回受賞：

2020年度 新・大人社会へのパスポート / 2023年度 新・大人社会へのパスポート3 / 2024年度 新・大人社会へのパスポート4

## 「新・大人社会へのパスポート」の特徴と工夫ポイント

### POINT1 若者にとって分かりやすく、読みたくなる構成を意識



漫画や心理テストなど、若者が読みたくなるような仕掛けを用意しました。言葉使いも意識し、「クレカ」や「億り人(\*3)」などのSNS等で使われる若者に親和性の高い言葉をゼミ生に確認してもらいながら使用しています。

### POINT2 時世に合わせたタイムリーなテーマ設定



ネット通販の定期購入トラブルをテーマにしたドラマなど、今問題になっている事例を紹介・解説しています。

(\*3) 億り人: 株式投資や暗号資産取引(仮想通貨取引)などで億単位の資産を築いた投資家を指す言葉です。

## 取組事例紹介

### 2023年度は77回5,540人に出席授業を実施

#### ——出席授業等の取組について教えてください。

2023年度に関しては、本教材を活用した出席授業を77回、5,540人に行いました。出席授業先は、中学校から、高校、大学、特別支援学校と様々です。また、授業内容に関しても、例えば『新・大人社会へのパスポート』の契約の基礎知識に関する部分と、『新・大人社会へのパスポート2』のお金をつかう・ためるの部分の内容を合わせた形で授業を行ってほしい』などの要望にも対応しています。

講師となるのは総合企画部(CSR)の職員はもちろん、各営業店の職員も登壇しています。1コマ50分で授業が行える講師用授業プログラムを1～5シリーズすべて制作しており、講師になる職員は、事前に授業プログラムを読んだうえで、授業を行っています。

また、出席授業のほか教材提供の依頼も多数いただいております。本教材に関しては、動画とワークブックともに、ホームページ上で公開していますが、ご依頼いただければ、DVDと紙のワークブックを無償提供します。これまでの累計でDVDが6,000部以上、ワークブックに関しては45,000冊以上提供してきました。提供先は、全国各地の自治体、消費生活センター、学校関連団体と様々です。中央労働金庫の営業エリア外でも、無償提供は受け付けていますので、ぜひお気軽にご連絡いただきたいと思います。



授業内容の他、出席授業の形式も、学年単位、クラス単位、就職内定者向けなど、各学校の要望に合わせた形で行っている。

#### ——受講生の感想を教えてください。

下記のような感想をいただいています。

##### 【先生からのコメント】

- お金について生徒に考えさせる機会をいただき、ありがとうございます。成年年齢の引下げにより、様々な問題点が生じるかと存じますので、こうした取組や事例を生徒たちに伝えていく場を今後とも増やしていただければ幸いです。
- 卒業を間近に控えた高校3年生に、社会人の先輩として貴重な経験談をお話しいただき、学生の頃からお金や契約について学ぶ機会を設けられたことを大変感謝しております。

##### 【生徒からのコメント】

- 講座を受講してお金の使い方や貯め方など、自分の知識だけでは不十分な点があることを知ることができました。
- 自分のお金の使い方を見直しつつ、動画やお話を通して、お金の正しい使い方や上手な貯め方について考えることができ、良い経験になりました。これからお金の使い方をしっかり考えていきたいと思っています。

## 労働金庫だからこそできる 誰も取り残さない金融教育を目指して

### ——今後の活動展望を教えてください。

最新作の「新・大人社会へのパスポート5」は、特別支援学校向けの金融教育教材をテーマに制作しました。卒業後に一般企業へ就職し、通常の給与所得者として生活を送る特別支援学校の生徒にとって、金融リテラシーの習得と消費者トラブルの予防は非常に重要です。そのため、第5弾のテーマとして選びました。

私たちは「誰も取り残さない金融教育」を目指して、組合員（働いている人）向けにはもちろんのこと、CSRを実践する企業として社会全体における金融教育の普及にも貢献したいと考えています。今後も“ろうきんらしい”視点で、金融教育の強化・取組に力を入れていきます。

### ——消費者教育を担う先生方や、一般消費者の皆さんにメッセージをお願いします。

中央労働金庫は、皆様にとって頼りになる存在を目指し、日々の業務に取り組んでいます。そしてその中で金融教育の重要性を強く感じています。お金は私たちの生活に不可欠ですが、金融教育は難しく、どこから始めたらよいか分からない、と感じる方も多いのではないのでしょうか。

そんな時に、私たちが制作した「新・大人社会へのパスポート」を、金融教育の第一歩として活用いただければ幸いです。消費者教育を担う先生方、消費者教育サポーターの方々、一般消費者の方々には、ぜひ本教材をご活用いただき、金融教育の推進にご協力いただければと願っています。

また、中央労働金庫では、中学校からの職場体験学習への対応や、社会人向けの金融教育セミナーも実施していますので、ご要望がある方はぜひお近くの中央労働金庫にお声がけください。



本記事の取材を受けた中央労働金庫  
総合企画部(CSR)白井宏幸氏。

### ——ありがとうございました。

もっと知りたい方はこちら！

中央労働金庫 CSRウェブサイト：  
<https://chuo.rokin.com/aboutus/csr/>